

「夏の学校」のお知らせ

「天文天体物理若手の会夏の学校（以下、「夏の学校」）」は、天文学および宇宙物理学に携わる学生を中心とする若手研究者の組織「天文天体物理若手の会」が主催する合宿形式の研究会です。

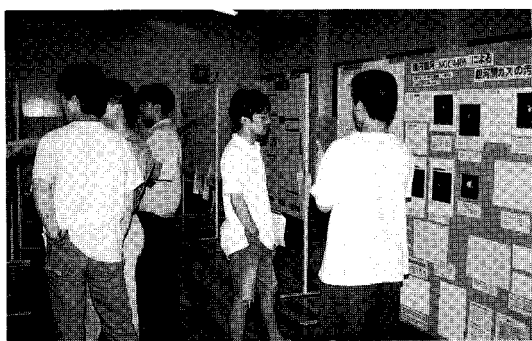
この会は、全国に散らばる若手研究者が各々の大学や研究分野を越えて様々な分野についての議論を行い、お互いの研究分野に対する知識や理解を深めていくことを目的として、毎年行われているものです。若手研究者の人数は近年増えてきてはいますが、それぞれの分野の細分化が激しいため、他の分野のことはよく知らないし他の分野の人とはあまり話したことがない、という人も少なくないのではないのでしょうか。そのような人にとって、夏の学校は他の分野の若い研究者がどんなことに興味をもって研究しているのかを知る絶好の機会です。また、全国からの若手が参加しますので、普段通りの生活を行っていたら決して逢うこともなかったであろう思いがけない未来の友人に出逢えるかもしれません。

夏の学校は今年で29回目を迎えますが、最近では毎年300名前後の参加者を数え、宇宙の様々な分野に対して幅広く研究交流が行われています。具体的には各研究分野毎に分科会という複数のセ

ッションに分かれて議論が行われます。今年度は「相対論・宇宙論」、「銀河・銀河団」、「恒星・太陽」、「星間現象」、「コンパクトオブジェクト」、「観測機器」、「宇宙線」のセッションについて各分科会の座長を中心に計画が進められています。それぞれの分野で、若手による一般講演と招待講師による招待講演が行なわれる予定です。今年度は、昨年までには設けられていなかった、「フリーポスター」というセッションのコーナーを設けて、ポスター発表にも力を入れています。また、他の研究会ではあまり見られない夏の学校ならではの企画として「天文学と社会」、「天文学の舞台裏」、「全体企画(今年のテーマは"すばる望遠鏡が開くサイエンス")」という大型のセッションが用意されています。

ただいま事務局では夏の学校への参加申込を受け付けています(6月25日まで)。今年の夏の学校は7月25日(日)～29日(木)に代々木の「国立オリンピック記念青少年総合センター」で行います。「夏の学校」のWebページも用意しましたので(<http://wakate.astron.s.u-tokyo.ac.jp/ss99/>)、より詳しい情報はそちらで手に入れることができます。夏の学校は、特に修士課程の学生にとっては自分の研究を発表するよい練習の場にもなるでしょう。今年は都内開催です。その交通の便を生かし、また、夏の学校の意義を御理解いただいて、より多くの若手の方が参加して下さいることを期待しています。

中村 敬喜 (1999年度夏の学校事務局広報担当)



「夏の学校」のひとこま